

# オルガン

視覚情報が氾濫する現代において、旅人の五感を拡張させ、旅先を五感すべてで体験できる移動型建築を提案する。



旅の醍醐味とは何かを考える。  
視覚情報が氾濫する現代においてただ景色を楽しむだけでは、  
旅を満喫したとは言い難い。  
目で見て、耳で聞き、味わい、香り、触れる。  
そんな、五感すべてで旅先を体感することこそ、  
旅の醍醐味ではないだろうか。

今通り過ぎていた場所に立ち止まり、  
五感を研ぎ澄まして旅先を味わい尽くす。

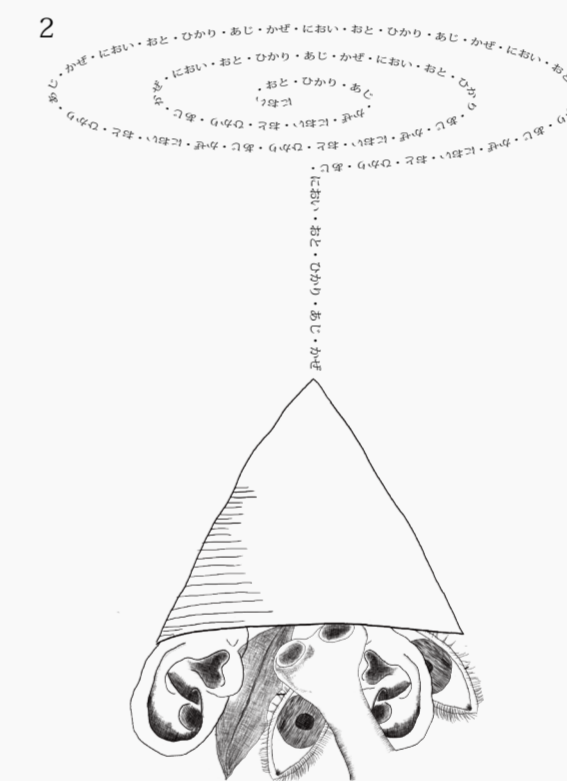
そんな建築を提案する。



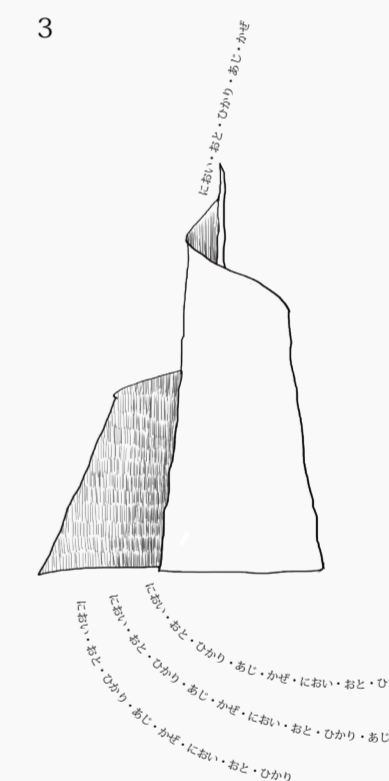
## 【diagram】



人間は（目、耳、鼻、舌、皮膚といった）  
感覚器官を通して様々な情報を得ている。



そして感覚器官から得た複数の情報を統  
合することで環境、場所を体験している。



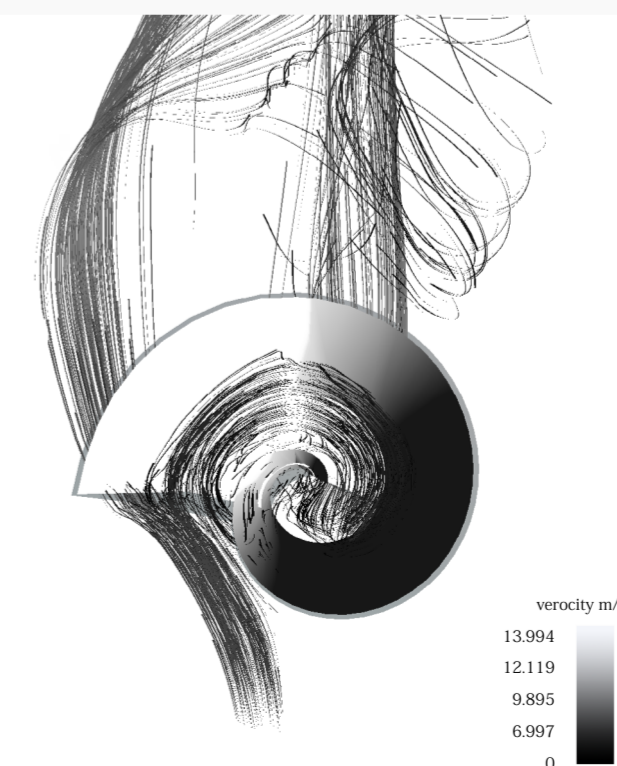
建築の形態を用いて周辺環境を集約、統合し、  
これを建築内部に表現する。

## 【analysis】

鏡シートを渦巻状にし、反射により様々な  
情報を中央に伝達し、上部に流すよう試み  
る。

中央には光・音・風・匂いが集まり、より  
深くその場所を味わう濃密な空間になる。  
風が中央にまで届くように渦巻の形を決定  
する。また、風がこの建築を通り抜けるよ  
う入り口と中央の部分を開口とし他部分は  
屋根をかける。同時に光も中央部まで到達  
するように壁の傾斜角度も考慮し全体の形  
を決定していく。

wind



light

